

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場東小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルワーク」等、個別に整備されたデータをもとめ、効果的に活用していきたい。また、次年度は、「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を研究のテーマとし、さらなる基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、R6年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	話し手の伝えたいことや自分の聞きたいこととの中心を捉え、自分の考えをもつことに課題が明らかであった。国語の授業中だけでなく、学級の総合活動などを通して伝えたいことや聞きたいこととの中心を捉える活動の充実を図る。また、各教科の授業で、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどちらの学年も平均92%以上を維持し、1年生から4年生においても、IC7を活用した振り返りの実施や記録の習慣を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。また、高学年の「課題の習得」の肯定的割合を向上させる手立てが必要である。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度でいたま市学習状況調査の国語の知識・技能に関する領域において、R4年度の自校の結果より1pt向上させる。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルワーク」などを活用し、振り返し課題に取り組むことで、基礎学力を確実に身に付ける指導を行う。
思考・判断・表現	R5年度でいたま市学習状況調査の国語において「思考・判断・表現」を昨年度の自校結果より1pt上げる。	⇒ 国語の知識や技能の全体像を体系的に指導する時間と課題があるため、振り返りなどを通して体系的に指導する時間を確保していく。また、授業の習得率を身に付けるための、多くの場と場かけの時間を図る。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度でいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答で95%以上を維持する。	⇒ 授業において、児童とともに必要極限の課題を設定したり、児童が問題を思いだしたりして、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	さいたま市学習状況調査では、R5年度「知識・技能」とR4年度「知識・技能」との偏差値の比較においては、+0ptという結果となった。 偏差値 R5: 3年:50.4年:53.5年:50.6年:55 R4: 3年:51.4年:51.5年:54.6年:52	A
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査では、R5年度「思考・判断・表現」とR4年度「思考・判断・表現」との偏差値の比較において+5ptという結果となった。 偏差値 R5: 3年:53.4年:53.5年:51.6年:53 R4: 3年:51.4年:51.5年:54.6年:50	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度でいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答で95%以上の割合となった。5年:91.7%、6年:92.8%と学校平均で92.25%という結果となった。R4年度は、5年:94.4%、6年:93.5%で学校平均93.95%だった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+3pt、算数+9ptで大層なポイントアップとなった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+6pt、算数+10ptで大層なポイントアップとなった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答は98%となり目標を達成した。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+1pt、算数-1ptであった。国語の教科書の表紙文化に関する事項の領域において課題が見られた。国語では、図形の問題において課題が見られた。教科書の興味関心については、国語は、肯定的な回答の割合が80%と高い傾向が見られた。
小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+2pt、算数+3ptであった。国語においては、図形の問題において、中心になる語や文を捉えて、文章を読み取ることができず、事項の領域に課題が見られた。教科書の興味関心については、国語は肯定的な回答の割合が約87%と高い傾向に、算数は、68%という傾向が見られた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+4pt、算数-2ptであった。国語では話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこととの中心を捉え、自分の考えをもつことができる事項に課題がある。生活習慣に関する、「読書の習慣」において、本を読んだり聞いたりするために、図書館に行くの肯定的回答が2割に満たないという傾向が見られた。
小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+3pt、算数+5ptであった。また、国語の同業同級生比較において、学習指導要領の領域「読むこと」が、-3ptという結果が見られた。生活習慣に関する、「読書の習慣」において、本を読んだり、聞いたりするために、図書館に行くの肯定的回答が7割という非常に低い傾向が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	算数の「図形」の領域において、面積を求める公式を覚える学習にとどまらず、その特徴を考えたり説明したりする活動を重視する。	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、算数の「図形」の領域に課題が明らかであったため、面積を求める公式を覚えるだけでなく、特徴を考えたり説明したりする活動を多く設定する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場東小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	未評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 全体的に、基礎的、基本的な知識・技能の定着が図れている。しかし、個人差が大きく、2極化する傾向がある。</p> <p><指導上の課題> 児童個々が、学習を振り返る機会があまり提供されていない。</p>	⇒ 「個別最適な学び」を研修のテーマとし、授業を改善している。学習が得意な児童は、さらに学力が向上するように、苦手な児童は、「わかる喜び」を感じることができるようになっていく。そのためには、児童の学習状況を把握し、個に応じた個別学習を行う。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 個別々に学習に取り組んでいる児童は多いものの、国語の学習では、文章を記述する課題で振り返りが自覚的。</p> <p><指導上の課題> 児童が多様な表現ができるように、工夫した授業を行うことが必要である。</p>	⇒ 児童が、文章を記述したり、作品を制作したりする際は、事前に評価の観点を示し、児童が表現の仕方の見直しをもって臨めるように指導をする。また、児童には様々な作品の例を示し、多様な表現方法を知る機会を設ける。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>①結果分析(7月)</p> <p>②調査問題の解説</p> <p>③振り返りの終了報告</p>	
思考・判断・表現	調査結果分析(7～8月)	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)